

#### 1. 教育の責任

日本での就職を目指す学生にとって壁となるのが、敬語や日本のマナーである。敬語は、日本語学習者にとって習得が困難なものの一つであると同時に、日本で就職を希望する者には習得が必須となる。また、日本のマナーは教科書を読み進めるだけでは理解しがたいことも多く、実生活の中で疑問に思うことも多々ある。このビジネス日本語の科目では、敬語に対する苦手意識を克服し、一つでも多く身に付け、日常生活や将来日本で就職する際の異文化理解の一助になることを目指したい。

#### 2. 教育の実施における理念

本科目は、留学生を対象に、卒業後の社会人としての活動へ向けてビジネスマナーやビジネスシーンでの会話、手紙の書き方、特有の語彙などを総合的に学習することを目標としている。実際に履修後すぐに日本で就職する学生は多くはないが、将来的に役に立つ情報を提供する事を心がけ、学生には知識を蓄えてほしいと願う。

また、授業では、学生が積極的に発言できる環境を作り、安心して学べる場を提供したい。授業内外で学生が疑問に思ったこと、新たに知ったことなどを全員と共有し、その中から日本語のレベル向上に必要な要素は出来る限り授業に取り入れたい。

#### 3. 教育の方法

2年後期開講でグローバル共生ITコースの留学生はインターンシップを行う時期である。また、ダブルディグリーや交換留学生など様々な日本語レベル、目的の学生が履修する科目でもあるため、初日にアンケートと面談によるレディネス、ニーズ調査を行い、授業計画を立てた。

学生から「ビジネスマナー」「会話」「手紙の書き方」を学びたいという意見があり、社内外での自己紹介、挨拶、電話応対などのロールプレイを行い、敬語や縮約形などを学んだ。授業後半では、メールの書き方を学び、これまで

に学んだ敬語などを使用しメールを作成した。

また、手紙の書き方も学び、実際にお世話になった教職員へ留学中のお礼の手紙を書くという活動も行い、学びを実践し、達成感を得る機会を設けた。また、Padlet(アプリ)を使い、学生が新しく知った語彙や表現を書き込み、共有し、全員で語彙を増やすという活動も行った。

#### 4. 教育の成果

成績や授業アンケート結果などは以下の通りである。

\*成績

秀:3 優:1 良:4 可:0 不可:0 平均 80.9 点

\*到達度評価

1:0 名 2:0 名 3:1 名 4:3 名 5:4 名 平均 4.30 点

\*学生の満足度(授業アンケートの評価結果)

総合評価としては非常に良かった。授業に対する総合評価は、5が7名、4が1名で、ビジネス日本語という留学生にとっては習得困難な科目であったが、コメントを見る限り、学習内容には満足していたようである。将来日本で働くという目標がある学生や履修時にインターンシップをしている学生などが在籍していたため、向上心が他の学生にも伝播し、良い影響を与えたと思われる。

評価については、試験 50%、小テスト 30%、態度(課題提出含む)20%とし、定期試験では授業内で学んだビジネスマナーや表現を理解しているかを、小テストではロールプレイで会話の内容と流暢さを、態度は受講態度や Padlet への参加度等を評価基準とした。

#### 5. 目標

授業の課題としては、日本での就職を希望していない履修者の学習意欲の向上である。今回は日本での就職希望者もあり、全体的に意欲が高かったが、留学生が履修できる日本語科目は多くはなく、取らざるを得ない学生も今後出ると思われる。そのような学生にも興味を持ってビジネス日本語を学べる仕掛け作りを考えたい。